

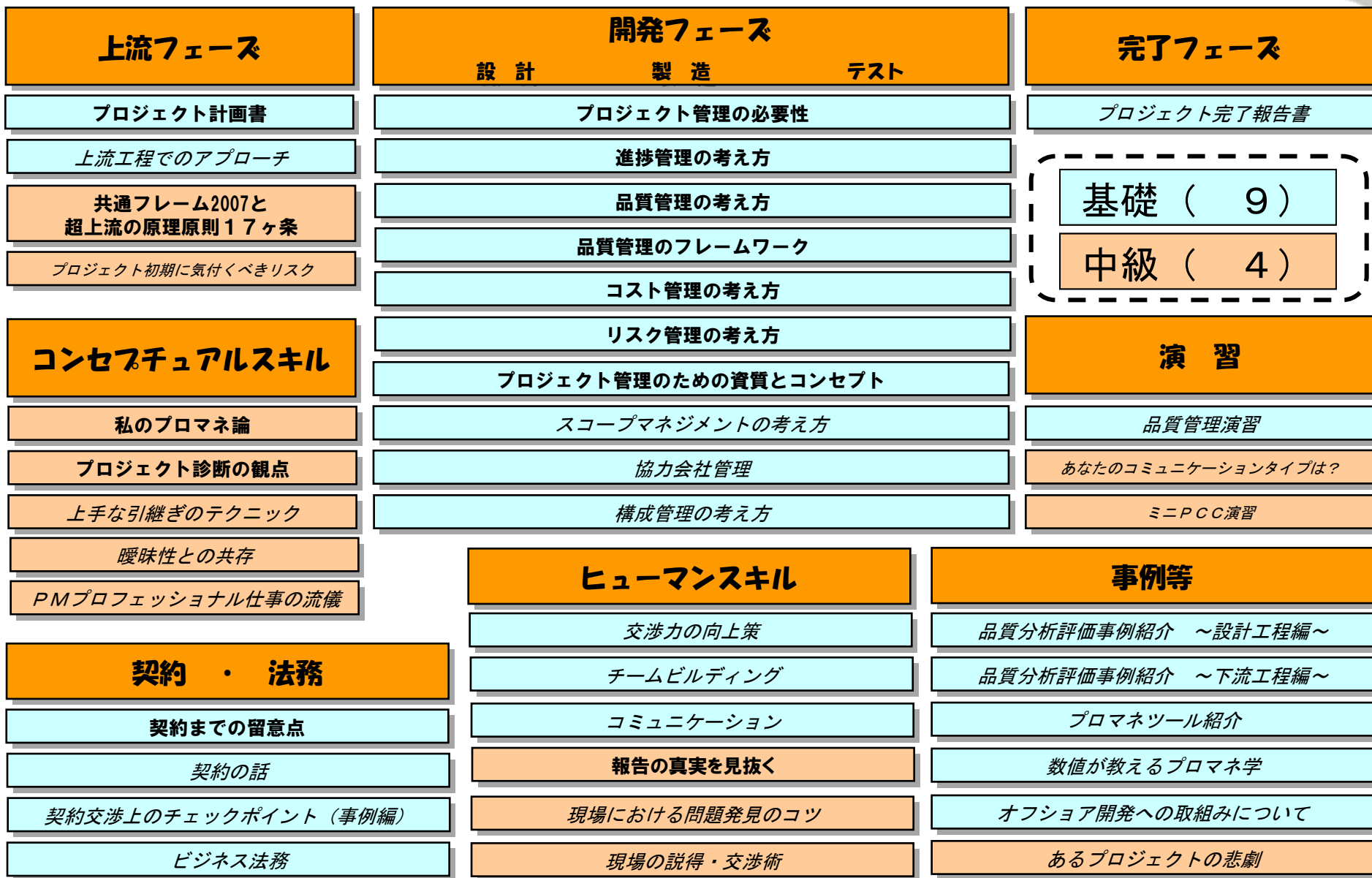
プロジェクト診断活動と連動した プロマネ教育の実践

～PMノウハウ伝播・伝承への熱い思い～

富士通株式会社 地域ビジネスリスクマネジメント推進統括部
(以降、地域BRMと略す)

○前田 修 進来 玄一郎 柳岡 利精 田中 英二郎

1. プロマネ教育コース体系(全39講座:34時間)



2. 本活動の変遷

1. 西地区PCC発足

1998年

PCC活動



2004年

PCCサポートメニュー



2010年

PCC活動



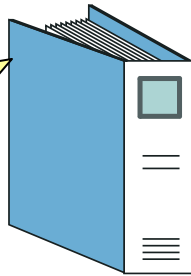
【教育活動誕生秘話】
PCC活動とは、実は教育
そのものである。

2. PM教育WG発足

2001年



ノウハウを
カタチに
PMノウハウ
伝播・伝承



【本教育の原本】

地域
B
R
M
の
組
織
化



プロジェクト強化型



テーマ別フロマネ教育
中級編



※PCC活動とは、Project Clinic Centerの略で、全国の地場をサポートする
SE会社に対して、PMOとしてプロジェクトを診断・支援するもの

3. 教育という手段は確かに有効だけど・・・

一度に多くの方が
現場を離れられない
【プロジェクト】

タイムリーな
教育受講が困難
【プロマネ】

悩み

プロジェクト全体で
意識合わせをしたい
【プロマネ】

自社にもっと合致
した教育をしたい
【人材開発部門】

4. 教育推進上の観点

1. もっと現場に合致した教育の実践

(対象となるプロジェクト規模、現状のレベル、事例中心)

⇒ プロマネ教育WGの発足声かけ、議論、教材作成

2. 継続は力なり

(最初は6テーマ、7年間に渡った教材Brush UP)

⇒ プロジェクト診断ノウハウの逐次反映、当部門の重点施策

3. PMノウハウ伝播・伝承の強力な推進

(もったいない、2007年問題、引き継ぎが困難)

⇒ 伝えようとする信念、1+1≠2、事例／経験の伝授

5. 地域BRM版プロマネ教育の特徴

本教育の基本コンセプト:

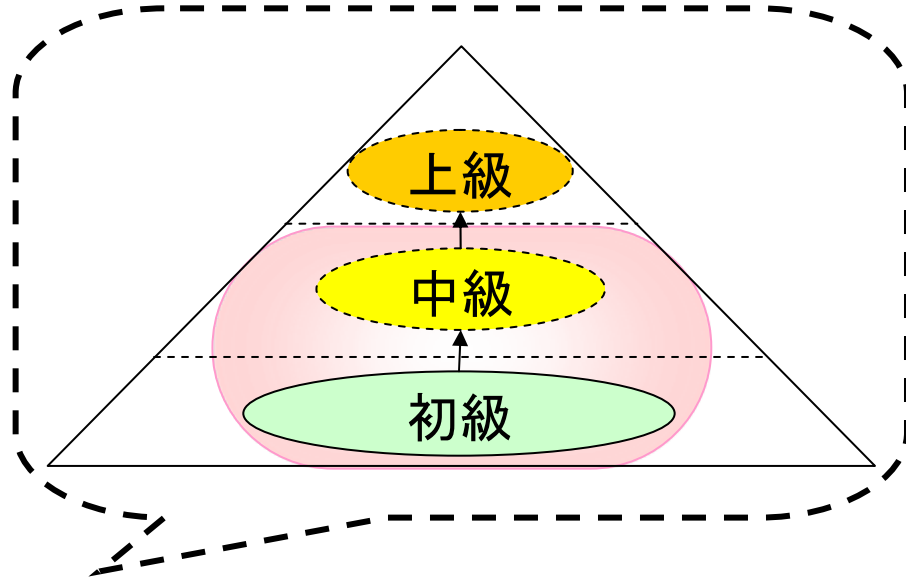
プロジェクト管理における **A B C** の徹底 (テーマ別にABCを設定)

A B Cとは、A(当たり前のことを) B(ボーツとせず) C(チャンとやる)

1. プロジェクト診断活動を通じて知った、『**プロマネの弱点**』を中心にした内容
2. 『**現場・現物・現実**』を大切にしつつ、PMBOKの考え方も採用
3. **プロマネ全体を網羅し**、短時間で理解できるオンサイト教育の実施
4. ノート部の充実により、**振り返り学習**が可能

6. 本教育の2つのタイプ

底上げ型(定期開催)

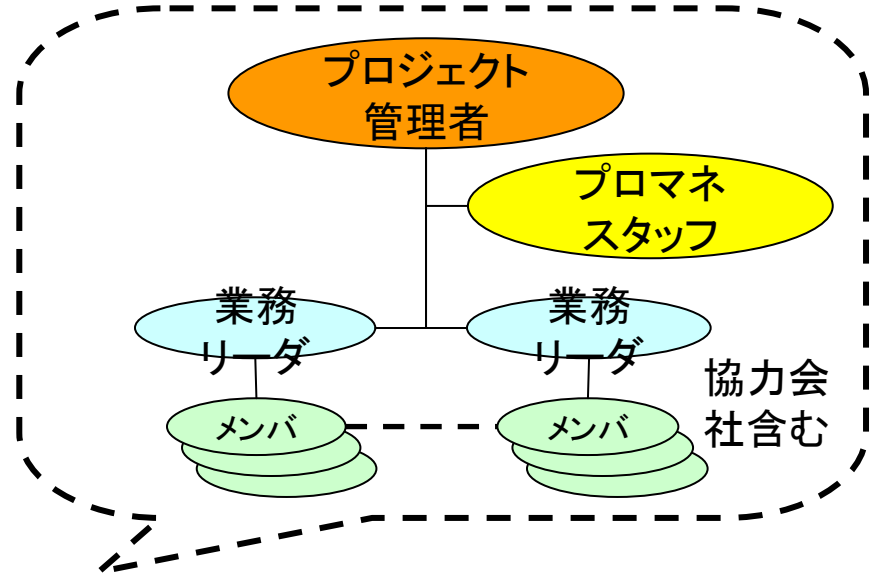


中級、初級のプロマネを対象に、全体のスキル底上げを図ることを目的とする。

ポイントは、多数の受講であること！

- ・ナレッジが共有され、共通の土台ができる

プロジェクト強化型

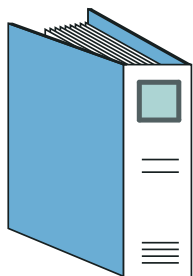
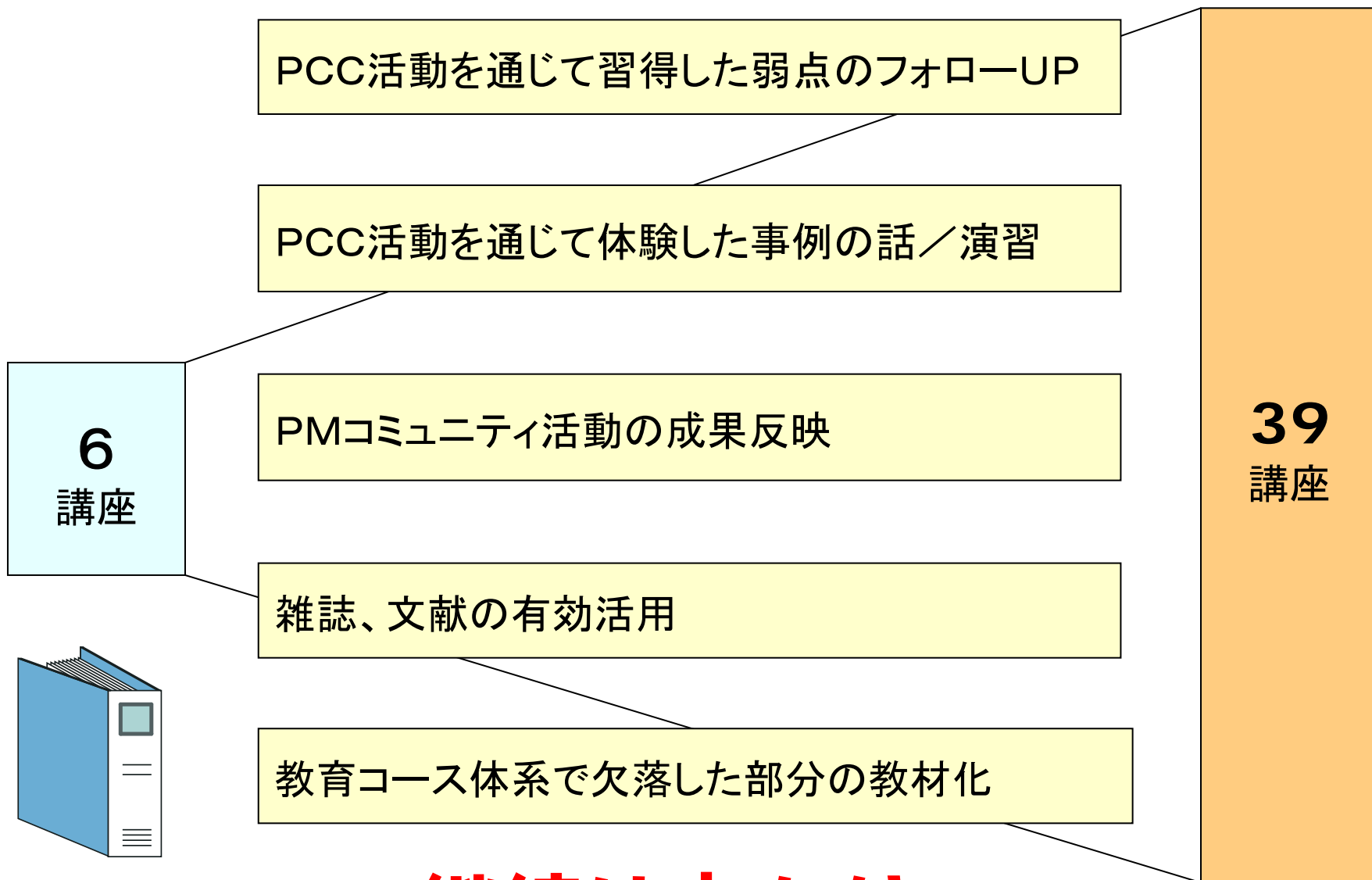


主にリーダー(協力会社含む)に対して、今後のプロジェクト推進に対する気付きを与えるとともに、弱点を補強する。

ポイントは、「タイムリー」であること！

- ・着実なプロジェクト推進の一助となる
- ・プロジェクト診断がやり易くなる(話が通じる)

7. 教材拡充・改版のアプローチ



継続は力なり

8. 継続して実施できた理由

1. 現場の理解

- ・各社トップの人材育成への思い
- ・教育窓口の推進力

2. 教育は現場優先で実施

- ・受講者と場所さえあれば、どこにでも出向く
- ・事前に事務局と顔合わせを行い、カリキュラムをすり合わせる

3. 受講者層／プロジェクトに合わせた講義

- ・受講者のPM経験年数や取り巻く環境を配慮する
- ・各社の経営層や幹部にも、動機付けをしてもらう

4. 新陳代謝と小集団による自律的運営

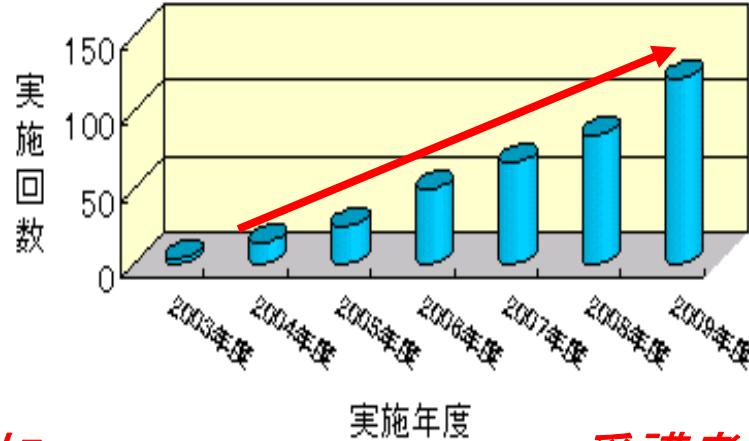
- ・毎年、その年での新しい気付きを教材に組み込む
- ・書籍を紹介して終わりではなく、咀嚼して、エキスを抽出して見せる

9. 本教育の実績【2003年度下期～2009年度】

122回 2440名

SE会社向け	: 83回	1339名
パートナー向け	: 22回	849名
プロジェクト向け	: 9回	131名
お客様向け	: 8回	121名

プロマネ教育実施回数(累積値)

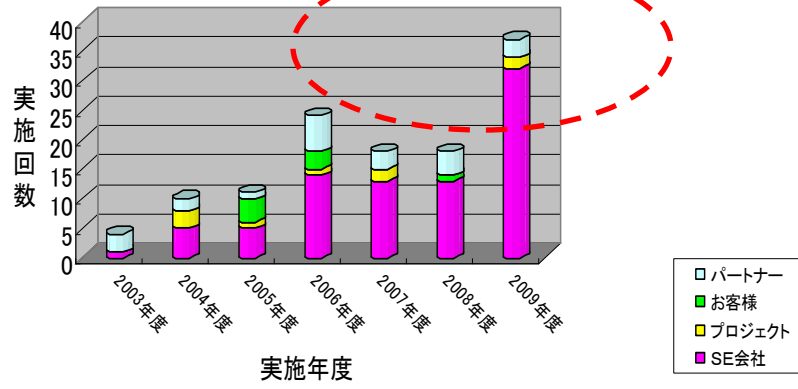


PCC活動
の連動に
よる拡大

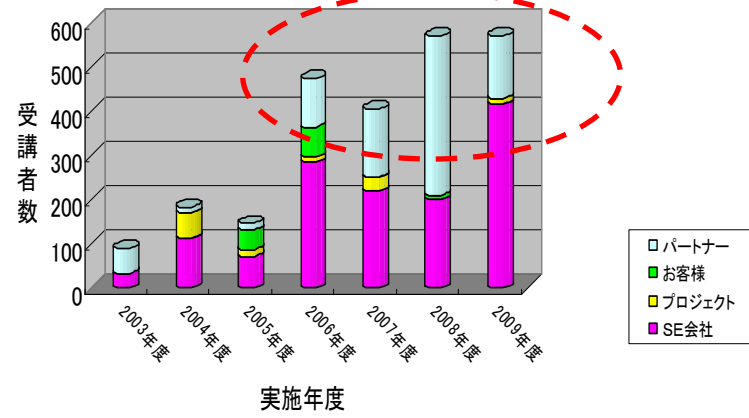
受講回数増加

受講者数拡大

プロマネ教育実施回数



プロマネ教育受講者数



10. 本教育の成果(受講アンケートより)

底上げ型

- 1) **当たり前のこと**とは如何なることか、よく理解できた。
または、再認識できた。
- 2) プロマネ全体を体系化した教育コースなので、**短期間でポイント**がよく理解できた。
- 3) 特に進捗管理・品質管理は具体的で**すぐ実行出来そう**で役に立つ。試してみたい。

プロジェクト強化型

- 1) **プロジェクトに合った内容**だったので、今後どのようにしていけばよいのかイメージがついた。
- 2) 協力会社のメンバと同じ内容を受講できたことで**意識レベルが合い易くなった**。

11. 何が解決できたか・・・

**現地で開催
時間、経費削減
【プロジェクト】**

**プロジェクトス
タート時に受講
【プロマネ】**

解決

**プロジェクト要員全員
(協力会社、顧客含
む)で意識合わせ
【プロマネ】**

**各社の状況に合致
した教育カリキュ
ラムによる実践
【人材開発部門】**

12. 今後に向けた取り組み(1/2)

1. プロジェクト強化型教育の推進 **現場に直接役立つ教育**

2. 上流工程へのより一層のシフト **問題は上流にあり**

3. トップマネジメントへの働きかけ **教育の重要性、動機付け**

4. 教育パワーの拡充&スキル向上 **講師の養成、プロジェクト
診断資格の登竜門**

5. 本教育実施後の受講生への フォローup

教育実施という”点”から
実務フォローupという”線”へ



STEP3(今後)

OUTPUT

ここを補強する
【長期課題】

【後方支援】

講師陣による
フォローUP

教育実践

STEP1(実践中)

リフレクション・シート

- 新たな気づき
- 弱点補強
- プロマネ像

STEP2(依頼中)

部下

上司

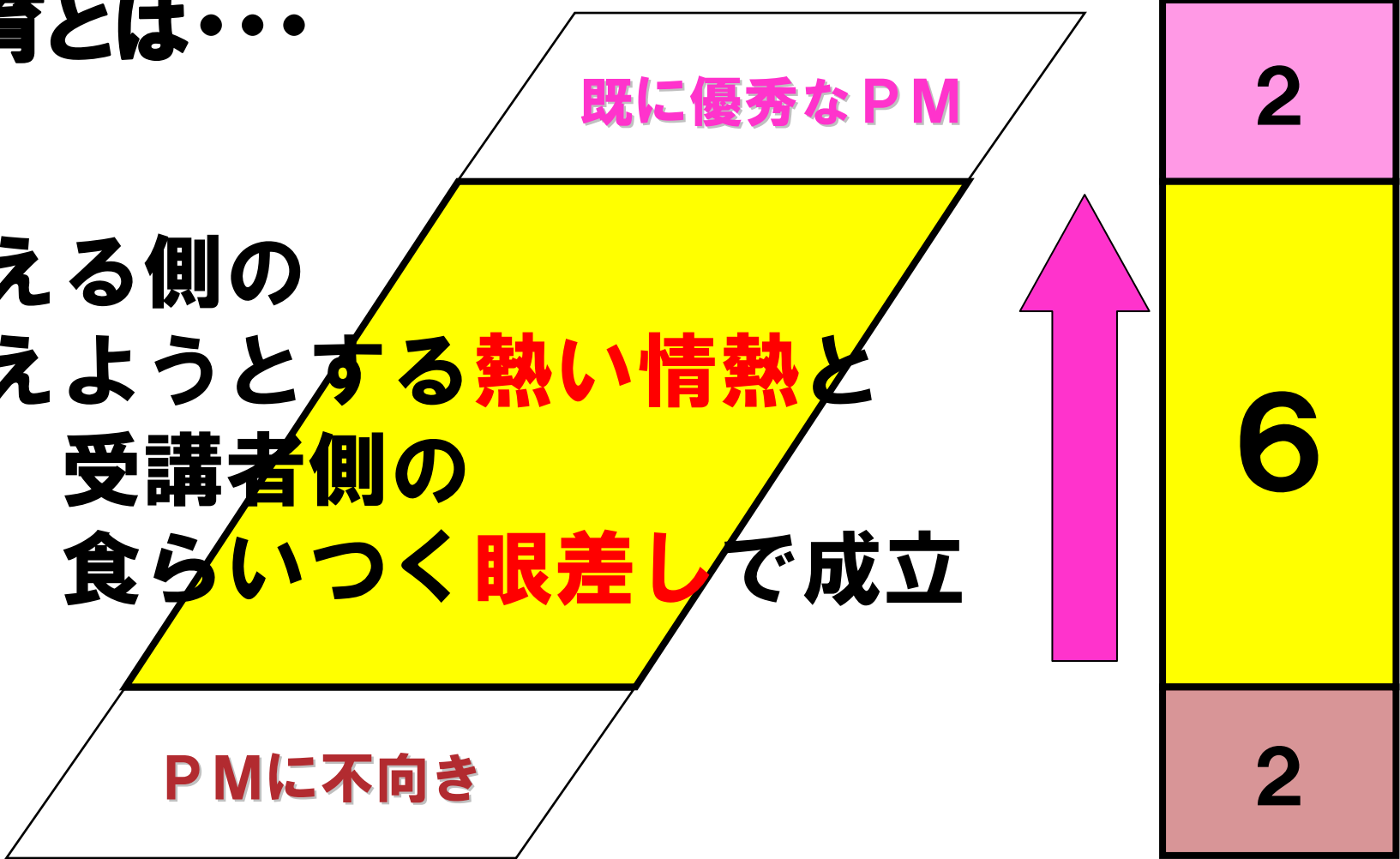


キャリア面談・目標管理

- 動機付け
- フォローUP
- 育成プラン

教育とは・・・

教える側の
伝えようとする **熱い情熱** と
受講者側の
食らいつく **眼差し** で成立



ご清聴ありがとうございました

FUJITSU

FUJITSU

shaping tomorrow with you

